

石狩あいロード

藤女子大生のアイデアを菓子店が形に

スイーツ完成販売開始

石狩市内にキャンパスがある藤女子大人間生活学部の学生のアイデアを基に、同市内の3つの菓子店が共同で昨年から開発に取り組んできた「石狩あいロードスイーツ」が完成、6月27日からこの3店などで販売を開始した。発売前日の26日、学生と菓子店代表が田岡克介市長を訪れ、若いカップルらに人気上昇中の「あいロード(国道231号)シンボルスイーツ」の誕生を報告、「Love」がテーマの「いちごのやわらかマドレーヌ」(淡いピンク色)をロビーで市民にプレゼントし、PRに努めた。

同市内全域を結ぶ国道231号を愛あふれる「あいロード」と位置付けた観光振興計画「ishikariあいロードプロジェクト」の一環。日本海を望む「恋人の聖地」(厚田区)、ハート型モニュ

甘〜い「愛」食べて



シンボルスイーツ発売を喜ぶ藤女子大の学生、菓子店代表ら

メントの「ラバースオーション」(浜益区)など人気スポットを象徴するお菓子を目指し、市内3菓子店が試作を重

ねてきた。

「あいロード」の発想段階から参加している藤女子大生のアイデアはラバースオーシ

ヤン台座に刻まれた四つ葉クローバーの言葉「愛」、「幸運」、「希望」、「信頼」を色彩と食感で表現するお菓子。「スカイブルーのメロンムース」、「マンゴーのロールケーキチースタルト」(黄)、「抹茶のムース」(緑)を加えた4種で「願いを本物に！」が原点だ。

リーダー格の4年生、沼田美由紀さんらは「試食を重ねたが、本当においしいお菓子になった。大学の購買(売店)でも販売されるはず」と確かな感触を得た様子。札幌開成高出身で札幌から通学する沼田さんをはじめ、プロジェクト参加者17人の大部分は札幌市在住。そうした学生と石狩の老舗・実力派菓子店、市の協働で作り上げた「新シンボルスイーツ」としても市民の共感を呼ぶとみられている。問い合わせは「和洋菓子のなかむら」(プリンスヒマラヤ)「ボンヌール」(各石狩市内)の3店と、あいロードプロジェクト協議会(事務局・石狩市企画経済部商工労働観光課内、☎0133・72・3167)。